



7/22 頃梅雨明けとなり、連日の高温で主要害虫の生育サイクルが早まっています。この時期の防除不徹底は、お盆明け以降の被害拡大の要因となります。下記の内容を参考にして、8月上旬の薬剤散布を進めてください。また、不明な点は担当技術員までお問い合わせください。

りんご 8月上旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

散布時期：8月5日～10日 *注意事項①、②、③参照

散布薬剤：

水	100 リットル	
展着剤	10ml	*注意事項④参照
ディアナWDG	10g	(前日、2回) *注意事項⑤参照
ダイパワー水和剤	100g	(14日前、3回) *注意事項⑥参照

散布量：10a 当り 600 リットル

対象病害虫：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、(カメムシ類)、(ハダニ類)

◆ 散布日： 月 日
◆ 散布量： リットル

【注意事項及びシンクイムシ類・ハダニ類防除対策】 ～ 必ずお読みください ～

- ① シンクイムシ類等の食害が目立つ場合は、今回の薬剤散布を前倒して進める。
- ② 収穫前規制のため、極早生種（夏あかり・さんさ・シナノレッド等）には飛散しないようにする。
- ③ つがる等の早生種最終防除となります。収穫開始 14 日前までには散布すること。
- ④ 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、機能性展着剤のササラの 2,000 倍（100 リットルに 50ml）を使用すると薬液が葉裏（毛じ間）に広がりがよくなり、散布後の乾きも早くなる効果がある。
- ⑤ ディアナWDGの使用倍率に注意する。（10,000 倍希釈）
- ⑥ 褐斑病の葉病斑が散見される場合は、ベンレート水和剤 3,000 倍（前日、4 回）を加用すること。
- ⑦ ハダニ類の発生が目立つ場合は、8 月下旬散布予定のオマイト水和剤 750 倍（14 日前、1 回）又はマイトコーネフロアブル 1,000 倍（前日、1 回）を繰り返して混用散布する。ただし、つがる等の早生種は収穫前規制に注意する。（オマイト水和剤はナシ類に登録がありませんので飛散しないようにしてください。）
- ⑧ 園地の外周等死角がないように、散布量は多めに設定すること。また、薬液が樹内部まで到達するように散布前に徒長枝切りや支柱立て等も積極的に実施すること。

◆ 次回（8月下旬）薬剤散布予定：8/20～25
引き続きハダニ類やシンクイムシ類の重要防除時期になります。

りんご早生種の栽培管理は裏面をご覧ください。

～ りんご収穫前規制と使用回数 ～

収穫前規制が長い有機リン剤や有機銅を含む剤を使用する場合は注意しましょう。（詳しくは下記を確認してください。）

	農薬名	収穫前規制	使用回数		農薬名	収穫前規制	使用回数	
殺菌剤	ダイパワー水和剤	14日前	*3回	殺虫剤	サイアノックス水和剤	45日前	2回	
	オキシラン水和剤	14日前	4回		ダーズバンDF (劇物)	14日前	2回	
	キノンドーフロアブル	14日前	4回		バイスロイドEW (劇物)	7日前	4回	
	キノンドー水和剤 80	14日前	4回		イカズチWDG (劇物)	前日	2回	
	オーソサイド水和剤 80	14日前	6回		オリオン水和剤 40 (劇物)	前日	2回	
	アリエッティC水和剤	14日前	3回		アルバリン顆粒水溶剤	前日	3回	
	ストライド顆粒水和剤	3日前	3回		バリアード顆粒水和剤 (劇物)	前日	3回	
	ベフラン液剤 25 (劇物)	前日	*3回		サムコルフロアブル 10	前日	3回	
	フリントフロアブル 25	前日	4回		フェニックフロアブル	前日	2回	
	ストロビードライフロアブル	前日	3回		ディアナWDG	前日	2回	
	ナリア WGD	前日	3回		殺ダニ剤	オマイト水和剤	14日前	1回
	ベンレート水和剤	前日	4回			カネマイトフロアブル	7日前	1回
	トップジンM水和剤	前日	6回			コロマイト乳剤	前日	1回
	ファンタジスタ顆粒水和剤	前日	3回			マイトコーネフロアブル	前日	1回
			ダニサラバフロアブル	前日		2回		
			ダニゲッターフロアブル	前日		1回		
			スターマイトフロアブル	前日		1回		

*開花期以降の使用回数

1. 着色管理について

- ① 日焼け果防止のため、果実温の高い日中に作業を行い、早朝や夕方、果実温の低い時間帯には行わないこと
- ② 徒長枝切りや枝つり、支柱立てを早めに行い樹冠内部への光の導入を図る
- ③ 葉摘みは、収穫の7～14日前から始め、2回は実施する
 - 1回目：日焼けに注意しながら、果実に密着している果そう葉を中心とした軽い葉摘みを行う
 - 2回目：着色の様子を見ながら玉回しと合わせて実施し、遅くとも8月20日頃には終了させる
- ④ 一度に強い葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意する
- ⑤ 玉回しは、果実が30%程度着色したら1回目を実施し、その後に葉摘みと併せて2回目を実施する。
- ⑥ 直射日光の当たる部分の葉摘み、玉回しは実施しないこと！本年も早い段階で日焼け果が発生しています！

【収穫時の注意】

- ① 着色のみではなく尻部の地色の抜け具合も注意する。つがるの収穫は高温時であるため、過熟果の発生がないよう熟度を考慮しながら行う（着色ではなく鮮度重視とする）
- ② 同一の樹のなかでも果実により熟度の差があるので、数回に分けて収穫する
- ③ 鮮度保持のため、日中の高温時の収穫は出来るだけ避ける。収穫した果実は日陰などの涼しい場所に積んでおくこと

【灌水・土壌管理】

- ① 高温・干ばつにより土壌水分の蒸散が激しい時期なので早めに灌水を行うこと。雨が5日以上ない場合は、1回のかん水量を20～35mm目安に実施する。
- ② 水分不足は果実肥大に影響し、水分ストレスはつる割れ果等の発生を助長する恐れがあるので注意する

2. 落果防止剤の散布について

- ① 対象品種：つがる
- ② 使用薬剤：ストップール液剤
- ③ 使用時期：収穫開始予定の25～7日前（2回まで登録あり）
- ④ 使用倍率：1500倍（水100ℓに66ml・展着剤は加用しないこと）
- ⑤ 散布量：500～600ℓ/10a
- ⑥ 使用方法：収穫開始予定の15日前に1回散布処理
 - 8月20日から出荷の場合：8/1～5頃（できるだけ早めの実施を！）
 - 9月1日以降出荷の場合：8/15頃（遅れずに！）
 - ただし収穫前規制のため、収穫開始は散布後7日間経過後とする

◆ 散布にあたっての注意事項

- ① ホルモン剤ですので他の農作物、特に野菜等にかからないように注意する（生育障害・薬害発生の恐れ）
- ② 単用散布を厳守（他剤との混用は絶対にしない）
- ③ 乾燥条件下では効果が低減するので、定期的なかん水を行う。（園地内の湿度を上げましょう）
- ④ 展着剤は加用しないこと。
- ⑤ 落果防止剤を散布すると熟度が早まり、果肉軟化を助長しやすいので、過熟にならないように収穫を進める。

